

インフォメーション

問い合わせ・申込み：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

☆ 奇数月最終金曜の夜はサポセンに集合!
サポセン フライデー始まる

サポセンには、地域の課題解決や地域の魅力向上に取り組む人たちが、それを支える市民の皆さんが来館しています。そんなサポセンユーザー（来館者）の皆さんが気軽に集まり、交流できる場が「サポセン フライデー」です。

奇数月の最終金曜日の夜に、サポセンの地下1階にある市民活動シアターで開催。団体でも個人でも、市民活動団体でも企業でも町内会でも教育機関でも、行政や外郭の人でも、サポセンのヘビーユーザーから、まだサポセンに入ったことのない方まで、地域のことに何かがある人などなたでも参加OK! みんなでワイワイ楽しく交流しながら、顔見知りを増やし、様々な形でまちづくりに取り組む皆さんがつながる場になればと思います。

また、毎回2つの干支を指定して、該当する干支の方とその同伴者（一緒にご入場される方）は入場無料とします。ぜひ周りの方の干支を確認して、連れだってご参加ください。

5月のサポセン フライデー

日 時: 5月31日(金) 18:30~20:30
会 場: 仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター
参加費: 500円(辰年・巳年生まれの方は無料)



サポセン・コトハジメ塾

日 時: 5月31日(金) 18:30~19:00
会 場: 仙台市市民活動サポートセンター1階 マチノワひろば
内 容: ボランティアに関心のある方、地域のために何か始めてみたい方やまちづくりに関わってみたい方を対象に、市民活動の基礎知識を事例とともにお伝えします。講座のあとには、サポセンの機能を紹介します。サポセンガイドツアーも開催。「何か活動を始めたい」という皆さんをサポートします。すでに市民活動や地域のまちづくりをしている方もサポセンの使い方をマスターして、活動に役立ててみませんか?

定 員: 10名(先着順)
参加費: 無料



想像を超える! ワクを超える!
一歩ふみだすこれからの20年へ

仙台市市民活動サポートセンター20周年記念イベント

超! マチノワ

サポセンは、おかげさまで今年6月に開館20周年を迎えます。そこで、仙台の市民活動の歴史や、現在実施されている市民活動・企業の社会貢献活動の紹介、市民による企画、ポスター展示、交流会などを通して、仙台のこれまでとこれからのまちづくりを考える場として、記念イベントを開催します。詳しくは決まり次第、サポセンのホームページなどでお知らせします。

日 時: 6月30日(日) 10:00~17:30
会 場: 仙台市市民活動サポートセンター 全館
主 催: 仙台市市民活動サポートセンター

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日 5月8日(水)、22日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP] <https://www.sapo-sen.jp> [Blog] <http://blog.canpan.info/fukkou/> [Twitter] @sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターが、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています!

▶ 市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

▶ 「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート] サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2019年5月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 鎌田みずほ 水原のぞみ
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと

サポセンは2019年6月に開館20周年を迎えます!

5

祝



仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2019 No.237

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



仙台をワクワクさせる人物をご紹介します

今月のワクワクビト

東北大学文学部4年 +suki 学生ライター

むらかみ あつや
村上 敦哉 さん (22)

学生たちの想いが
伝わる記事を書きたい

村上敦哉さんは記者志望の大学4年生。2019年2月から若者向けウェブマガジン「BGM」で学生インタビューコーナー「+suki」を不定期連載しています。「まるで読者も一緒に話を聞いているかのように感じてほしい」と記事は取材対象者の口調を残した雑談形式に。会話の中で垣間見える相手の人柄をできるだけリアルに伝えようと工夫しています。取材対象者は自分と同世代の大学生。「+sukiで取り上げる人たちは、決して特別な人たちではないけれど、少しの勇気で自身の思いを実現させているところが魅力です」と力を込めます。

大学では社会貢献と、自身のスキルアップを目指し、東北大学公認の「東北大学新聞」を編集・制作する学友会報道部に入部。2018年11月まで副編集長を務め3年間で50本以上の記事を書きました。「自らなすべきことを考え、主体的に活動している若者を多くの人たちに紹介したい」。様々な人と接する中で、日増しに思いは強くなっていきました。これまでの経験すべてを賭けて、学生たちの想いの糧を読み手につなぎます。

取材・文 福地裕明



特集

講座で広がる、食の当事者のつながり
宮城の食農を学ぶ「仙臺農塾」

レポート!

健やかな未来のために
環境知識を

+suki(たすき) ～学生ライター・村上がつなぐ想い～

「BGM」は、大学生や新社会人をターゲットに、宮城・仙台の優れた企業や、気になるひと、カフェなどを紹介するウェブマガジンです。中学高校は陸上競技に打ち込んでいた村上さん。+sukiのタイトルは駅伝の「襷」と「好き」の意味を掛け命名しました。ボランティアやNPO活動など様々なことに打ち込んでいる学生たちを紹介しています。

●ウェブマガジン「BGM」
HP <https://b-g-m.jp> +suki URL <https://b-g-m.jp/?p=4506>

地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

講座で広がる、食の当事者のつながり 宮城の食農を学ぶ「仙臺農塾」

美味しい料理を食べながら、食や農について学ぶ食育講座があります。講師は、食の作り手たちです。作り手から生産のこだわりや工夫を学び、思いに触れることで、普段なにげなく食べている食材への見方も変わります。食の生産者と消費者をつなぐ仙臺農塾の取り組みを紹介します。



楽しく学べる大人の食育講座

仙臺農塾(以下、農塾)は、宮城の食を支える当事者のネットワークを広げようと、年に数回ほど行う食育講座です。主に、食生活が乱れがちな社会人を対象とし、平日夜に仙台市内の街中にある飲食店を会場に開催しています。講座といっても、席に着きペンを握るものではありません。食の作り手である農家や食品メーカーの人たちを講師に招き、講師から提供される食材を使った料理を食べながら、生産のこだわりや安全性、ちょっとした豆知識などを学ぶことができます。「おいしいハムの選び方」や「みんなでミョウガタケを味わおう!」など、多彩なテーマが揃います。会場となる飲食店の料理人は、普段のメニューにはない特別料理を食材に合わせて考案し振舞います。

2月に開催した「井土の湧き水が育むネギ物語」では、東日本大震災後、若林区沿岸部の農業再生に向け、井土地区で生産に取り組んでいる「井土ネギ」を使った料理を楽しみました。参加者の年代は、20代から60代まで様々。生産者から直接、食材や生産のエピソードを聞き、お酒を酌み交わしながら団らんしました。

農塾の運営は、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(略称:MELON)を中心に、農家や食に関心のある市民が連携して行っています。野菜好きが高じて農塾に通い続けるうちに、開催店舗や生産者を紹介するなど企画運営にも加わるようになった三浦まさみさんは、「生産者から直接学ぶ機会は貴重。参加者同士で仲良くなれてとても楽しい」と話します。MELONの高橋民子さんは、「生産者、店舗、参加者、みなさんとのご縁が何よりの財産」と笑みをこぼします。

学びの当事者の広がり

農塾は、2012年10月に始まり今年で7年目を迎えます。MELON若手有志とボランティアからなる食部会の事業としてスタートしました。環境問題に取り組み20年。MELONとして新たな出会いも求め、若い層へ向けたこれまでにない企画を展開しようとしていました。着目したのは、働き世代の食の乱れによる様々な病気や疾患にかかる人の増加という社会問題。「食育」という馴染みやすいキーワードから、地元



▲MELON 提供

の食に関する知識に留まらず、こだわりを持って生産された食材の価値を次世代に継承していこうと企画。宮城大学で食品マーケティング戦略を指導している谷口葉子さんの協力のもとアイデアを出し合いました。広報パンフレットにはデザイナーを入れるなど工夫。キャンセル待ちが出るほど多くの参加者が集まりました。

特に、震災時に発生した放射能問題に伴い、食への関心は一層高まりました。「わからない」ことが不安を呼び、生産者は風評被害にも悩まされました。県南の生産者を招いた農塾は、実際の被害状況や安全対策について直接伝え、また知る機会となりました。谷口さんは「生産者も消費者も同じ立場で考えられる場になるよう意識した」と明かします。名取で農業を営む三浦隆弘さんは、「講師も参加者も、全員が学び合いの当事者になれる場です」と農塾の価値を語ります。

誰もが地元の食を支える当事者

これまで、学び合いの当事者となった人は延べ1,160人以上。多様なジャンル、立場の人々が興味や関心、好奇心に惹かれ協働の輪が広がっています。MELONの山形さんは「地域の食について学び合い、日々の暮らしに持ち帰って欲しい」とさらなる広がり期待を膨らませます。(取材・文 宮崎真央)

●公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F TEL:022-276-5118

活動に役立つ書籍をご紹介します

お役立ち本

「国境なき医師団」を見に行く

著者:いとうせいこう 発行所:株式会社講談社

国境なき医師団、正式名称Médecins Sans Frontières(以下、MSF)は、1971年にフランスで設立された、世界各国で医療や人道援助活動を行っている団体です。紛争国や天災に遭った地域、貧困に苦しむ国、性暴力が頻発する地域にも入り支援します。本書では、作家でもある著者が、ハイチ、ギリシャ、フィリピン、ウガンダへMSFを見に行き、そこで働く人々取材しています。現地には、世界の残酷な現実を前に、困難と戦う人々の人間味溢れる姿がありました。



活動を始める一歩を応援します

コトハジメ

日本語を教えるボランティア募集中! 在仙台ベトナム人協会

「ベトナム人と日本人」のための国際交流団体です。ベトナム人を中心に、色々な国の人が日本語を学んでいます。時にはお互いの国の行事を紹介したり、それぞれの国の料理を作り共に食べたりしながら交流を楽しんでいます。

<日本語教室>

活動日時:毎週 土曜日14:00~16:00、日曜日10:30~12:30

活動場所:仙台国際センター交流コーナー

問い合わせ・申込み:代表ドバン トウアン

TEL 080-9600-8686 Mail Tuandovan2011@gmail.com

URL <https://www.facebook.com/groups/459058161235307>



市民ライター 関野 頼利さんの突撃レポート!

取材団体名 / 仙台エコピープル協会

健やかな未来のために 環境知識を



▲受験対策セミナーの様子

「地球温暖化やゴミ増加などの問題に、今取り組むことは、わたしたちの未来を救うことになる。そこを考えてほしい」と、仙台エコピープル協会(以下、協会)現会長の小松敏明さんは話します。会員12人全員がeco検定の合格者。エコピープルとは合格者に与えられる称号です。会員一人ひとりが、環境改善の営業マンとなり、地域社会へ貢献しようと活動しています。初代会長の今井宏信さんは、「eco検定は環境に関する素養を身につける手段。入門編なので気軽に取り組みます」と、試験の先入観を和らげます。協会は、年2回の受験対策セミナーや環境問題に関わる講習会を開催し、人材を育て続けています。隔月の定例会では、会員が各自の環境活動や研究の発表をするなど自己研鑽も怠りません。

環境カウンセラーでもある今井さんは、「eco検定を通じて、広く多くの人に知識を身につけてもらおう」と2007年に協会設立を決意。環境問題を理解する人が増えることで、ゴミを減らす工夫や環境に配慮したモノづくりへの取り組みが一層進むことを確信し、活動をはじめました。2代目会長の又城隆さんは、「環境に優しい製品やサービスが事業そのものの価値を高めます。ビジネスと環境との関係性を的確に説明できる人材は今や必須」と、企業における環境知識の重要性を話します。

eco検定は年齢制限が無く小学生も受験可能です。環境の知識を高めて、身近なことから社会貢献に踏み出してみませんか。

連絡先
会長 小松 敏明
宮城県仙台市青葉区広瀬町4-8-2912
TEL 090-1934-6492 HP <https://s-ecopla.jimdo.com/>